

都市政策研究所  
ニュース

THE NEWSLETTER OF INSTITUTE FOR URBAN AND REGIONAL POLICY STUDIES

北九州市の住みよさ  
～全国54都市の比較調査～

新しい年を迎え、気持も新たに都市の課題に向き合っていきたいと考えています。そのためには、都市の現状や問題から目をそらすことなく真摯に受け止めていかなければなりません。

都市の課題を明らかにするひとつの方法として都市間比較があります。日本人は比較されたり順位を付けられたりすることへの抵抗感が強く都市間比較はそれほど重視されていません。しかし世界的に国の比較、都市の比較は様々な目的で行われており、アジア都市の台頭のなかで近年ますます多くの事例がみられるようになってきました。

都市間比較はその目的や対象の選び方、比較方法などによって多彩なアプローチが可能ですが、都市政策の課題を知るためには幅広い項目について比較が必要です。またできるだけ一般的でわかりやすい指標(ものさし)を選ぶことも大事です。

そのような都市間比較を目指して2003年度に旧財団法人北九州都市協会が行った調査研究がありますが、私を含め都市政策研究所の所員4名が当時それに携わりました。その結果を「住みよい都市-全国主要都市の比較調査-」(共同通信社)として出版しましたが、類書がないため今でも時々照会があります。しかしその後7年を経過し、当時意図していたフォローアップがそろそろ必要と考え、データの更新に着手しました。

調査対象は、政令指定都市、道府県庁所在都市及びその他の人口30万人以上の都市(三大都市圏を除く)です。ただし東京は対象外としました。

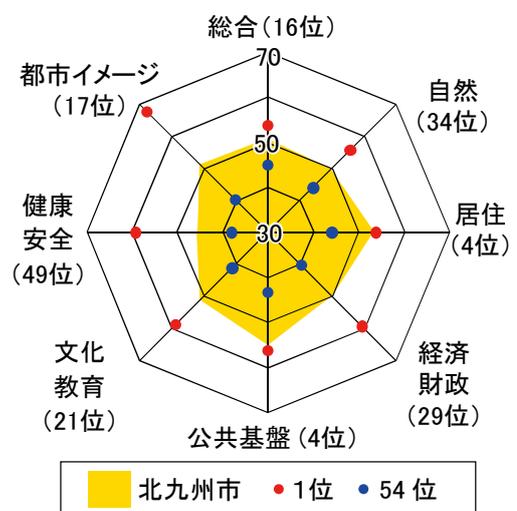
調査項目は7つの大項目(右図参照)ごとに3～5の中項目、さらに2～5の小項目を設定し、合計73の小項目について公表済の最新データを用いて更新を行いました。なお、データなどはそのま

までなく偏差値化して比較を行っています。

その結果、総合評価の上位5都市は仙台、京都、神戸、金沢、福岡でした。北九州は16位で2002年調査の26位からかなり順位は上がっています。しかしそれは他の地方都市の問題が北九州よりも深刻化したためであり、北九州の問題が軽減されたことによるものではありません。

大項目別では、北九州は「居住」と「公共基盤」の評価が高く、一方「健康・安全」の評価はかなり下位となっています。

今回は第一報として、もう少し詳しくは稿を改めて紹介したいと考えています。刻々変化する状況に対応した更新が必要な都市間比較ですが、今回の更新作業を通じて、その必要性和有用性が再確認できたと考えています。



都市間比較結果・大項目別の偏差値

(伊藤解子)

# リサーチパークに期待される機能・評価と今後の展望

## —全国と北九州市折尾地区の調査結果から—

都市政策研究所 教授 吉村英俊

### 1. はじめに

地域産業の発展を図るため、これまで全国各地にリサーチパークやサイエンスパーク、ハイテックパーク、学術研究都市などと呼ばれる大学や研究機関、研究開発型企業が集積するエリア（以下リサーチパーク）が数多く整備されてきました。そして、それぞれのリサーチパークでは研究機関を誘致したり、情報通信網や分析機器を導入したりするなど、研究開発基盤の充実強化に向け、多くの投資を行ってきました。

また 21 世紀に入って、工業社会から知識情報社会に移行する中、これまでの効率性から創造性が重視されるようになり、より一層人材への関心が高まっています。そのため、リサーチパークを含む地区は、研究者や技術者にとって、働いてみたい、住んでみたいと思えるような魅力的なところでなければなりません。

そこで本稿では、リサーチパークの知的創造拠点性を高めるため、直接的な要素である研究開発機能と、間接的な要素である生活面の 2 つの視点から、現状（ニーズと評価）を把握した結果と、充実強化の方途を述べたいと思います。なお、調査にあっては、まず全国の状況を把握し、次に北九州市折尾地区を取り上げました。

### 2. 全国の状況

#### (1) 調査方法

リサーチパークに勤務先が立地し、研究・開発、情報システムの職に従事している者を対象にインターネット調査を行いました（実施期間：2010 年 1 月 18・19 日、サンプル数：206）。

#### (2) 調査結果

研究開発機能においては、理工系の大学や研究機関、人材といった研究開発の基盤（核）となる要素を重視しており、とくに産学連携を頻繁に行っている

場合には、その傾向が顕著です。なお、回答をみる限り、既設のリサーチパークは、概ねこれらのニーズを満足しているといえます。

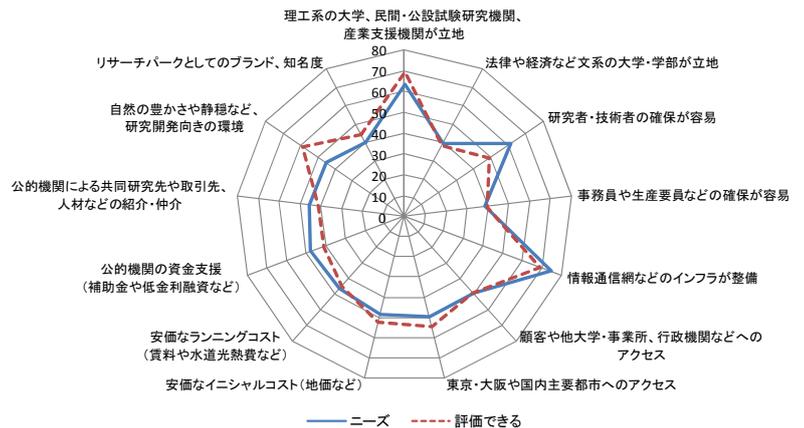


図 1. 研究開発機能のニーズと評価（全国）

一方、生活面においては、鉄道やバスなどの公共交通や住宅、教育・文化施設、医療・子育て施設など、都市基盤や都市機能に関するニーズが高くなっています。通常、リサーチパークは広大な敷地を必要とするため、郊外に造成されます。したがって、周辺には緑豊かな自然環境が備わっている反面、最寄りの都心（まちなか）へのアクセスが悪く、ニーズと評価が大きく乖離しています。

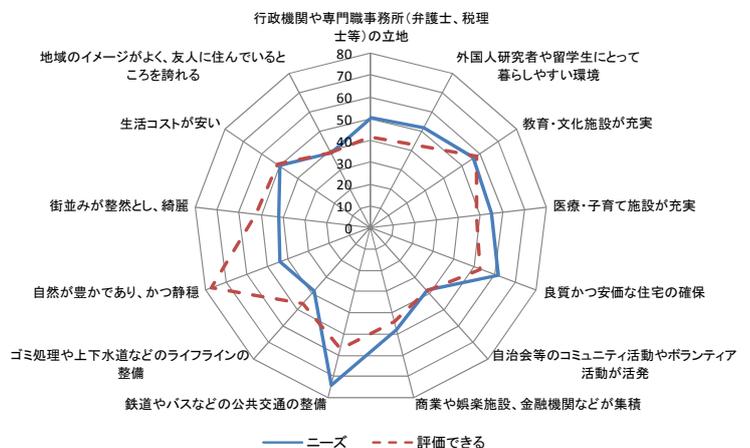


図 2. 生活面のニーズと評価（全国）

### 3. 北九州市折尾地区の状況

#### (1) 折尾地区の概要

折尾地区には、2001年4月に開設した「学術研究都市（以下学研）」をはじめ、多くの学術研究機関が集積しており、西日本有数の規模を誇っています。

学研〔内〕に立地	北九州市立大学・大学院
	九州工業大学大学院
	早稲田大学大学院
	福岡大学大学院
学研〔外〕に立地	産業医科大学
	九州共立大学
	九州女子大学
	九州女子短期大学

周辺には、市内でも有数の高級住宅地が整備され、JR駅周辺は若者で賑わっています。折尾は博多と小倉の間点にあり、特急で博多まで30分、小倉まで15分と両拠点へ短時間で行くことができます。

このように学研は、北九州市の21世紀の産業経済を牽引すべき、大いなる可能性を秘めた地区であり、より一層充実強化することで、国内はもとより、世界中から有能な研究者や技術者が集めることが可能です。

しかし一方、近隣の同様の学術研究地区：九州大学が移転した福岡市伊都地区や九州工業大学情報工学部が立地する飯塚市との差別化が十分にできていないとはいえず、せっかくの潜在能力が活かしきれていません。また大学や研究機関、企業は折尾地区に所在しますが、そこで働く研究者や家族はそこに住まず、福岡市から通っており、出張者は福岡空港を使い、福岡市のホテルに宿泊するといえます。

#### (2) 調査方法

折尾地区に立地する大学・大学院の教員及び研究スタッフ、北九州学術研究都市に立地する企業・研究機関に対して、アンケート調査を行いました（調査期間：2010年1月8日～2月15日、配布数：682、回収数：271、回収率：39.7%）。

#### (3) 調査結果

ニーズについては、研究開発機能と生活面ともに、全国の状況と概ね同様の傾向を示しているものの、満足度

についてみると、「アクセス」が共通の課題となっており、とくに学研内勤務者においては深刻です。また研究開発機能においては、研究者や技術者といった「研究に携わる人材」が満たされておらず、生活面においては、教育・文化、医療・子育てといった「都市機能」が十分ではありません。

さらに学研の内外で評価に差異があり、資金やコーディネーターといった「公的機関による支援」、「外国人教員や留学生に対する環境整備」「街並み整備」などにおいて、学研〔内〕の評価は高く、行政機関によるこれまでの投資の成果といえる一方、このことは同じ折尾地区にあって、一体化を阻害する要因にもなっているものと思われます。

なお、ネガティブな要因のみならず、ポジティブな要因もあります。例えば、「生活コスト」が低いことであり、その結果、回答者においては「住宅」などのニーズが低くなっています。

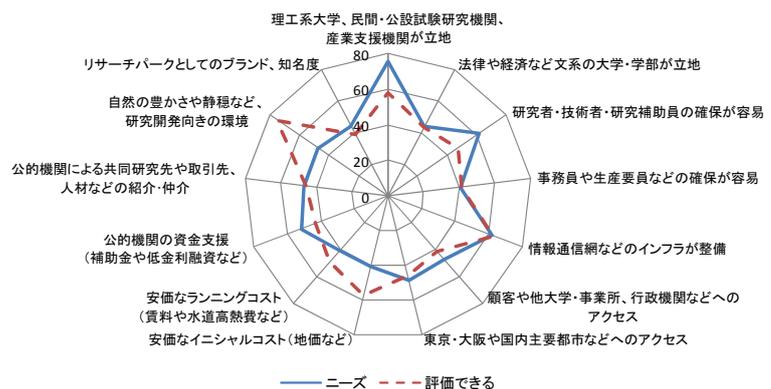


図3. 折尾地区の研究開発機能のニーズと評価

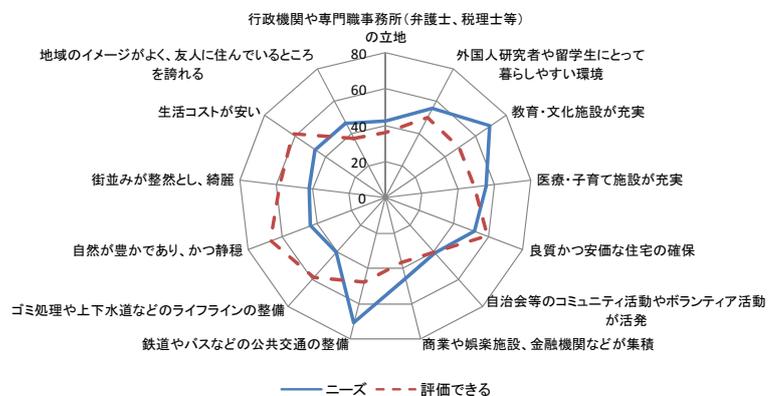


図4. 折尾地区の生活面のニーズと評価

(4面に続く)

(3面から続く)

#### 4. 今後の展望

##### (1) 公共交通の整備によるアクセス改善 (都市基盤)

鉄道の敷設は、用地買収や財政などの観点から課題が多く、時間を要します。したがって、まずは比較的容易に、かつ柔軟に導入することができるバスの運行を図ることが現実的です。バスはフル規格の大型バスに拘ることなく、マイクロバスやワンボックスカーであってもよいと思います。またバイオ燃料車を走らせるなど、社会実験を併用したりすることも考えられます。いずれにしても、既成の概念を踏襲することなく、柔軟に対応することが重要です。

##### (2) 暮らしやすいまちづくり (都市機能)

住民や働きに来る人が快適に暮らせる機能、例えば、行政機関や商業施設、金融機関などを充実しなければなりません。ここで重要なのは、見かけの格好良さは重要ではなく、実質的な機能をきちんと造り込んでいくことです。またイタリア及びアメリカで行った就業及び居住に関する調査によれば、文化施設や歴史的建造物など創造性の源泉となるべき要素を重視しており、わが国においても、創造性豊かな研究者や技術者は、文化や芸術への欲求が高まってくるものと思われま。なお今後、リサーチパークを大きくしたいならば、外国人や留学生に配慮した世界基準のまちづくりを指向することが不可欠です。

##### (3) 更なる研究開発機能強化 (研究開発基盤)

これまで同様に、理工系の大学や研究所、産業支援機関などの集積に努めていかなければなりません。なお、リサーチパークの拡充及び維持管理においては、立地する地方自治体の協力が不可欠です。昨今の財政難をかんがみて、規模が大きくないリサーチパークにおいては、どこに強みを見出すのか、差別化の方向を明確にしなければなりません。

## 事業日誌 (2010年10月~12月)

### ■研究会など

- ・地域づくり研究会：10/23、12/11
- ・産業経済研究会：10/28、12/21

### ■講演、シンポジウム、学会など

- ・日本都市学会：10/23~24
- ・地域住宅計画全国シンポジウム 2010 丹波篠山大会：10/30
- ・日本スポーツマネジメント学会：10/31
- ・九州経済同友会九州はひとつ委員会 (講演)：11/9

### ■出張、視察対応など

- ・対日投資戦略策定のための現状調査 (ロシア・チェリャビンスク)：11/13~20
- ・自転車タクシー調査 (カンボジア・タイ)：12/16-19

### 都市政策研究所資料室・新着図書

- ・世界統計年鑑 2008
- ・日本都市社会学会年報 28
- ・独占禁止白書 平成 22 年版
- ・世界経済の潮流 2010 年 II



[編集・発行]

### 北九州市立大学 都市政策研究所

〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4-2-1  
Tel: 093-964-4302 Fax: 093-964-4300  
E-mail: toshiken@kitakyu-u.ac.jp  
URL: <http://www.kitakyu-u.ac.jp/iurps/>

### NEWSLETTER No.55

1.1.2011

INSTITUTE FOR URBAN  
AND REGIONAL POLICY STUDIES,  
THE UNIVERSITY OF KITAKYUSHU,  
KITAKYUSHU CITY, JAPAN